

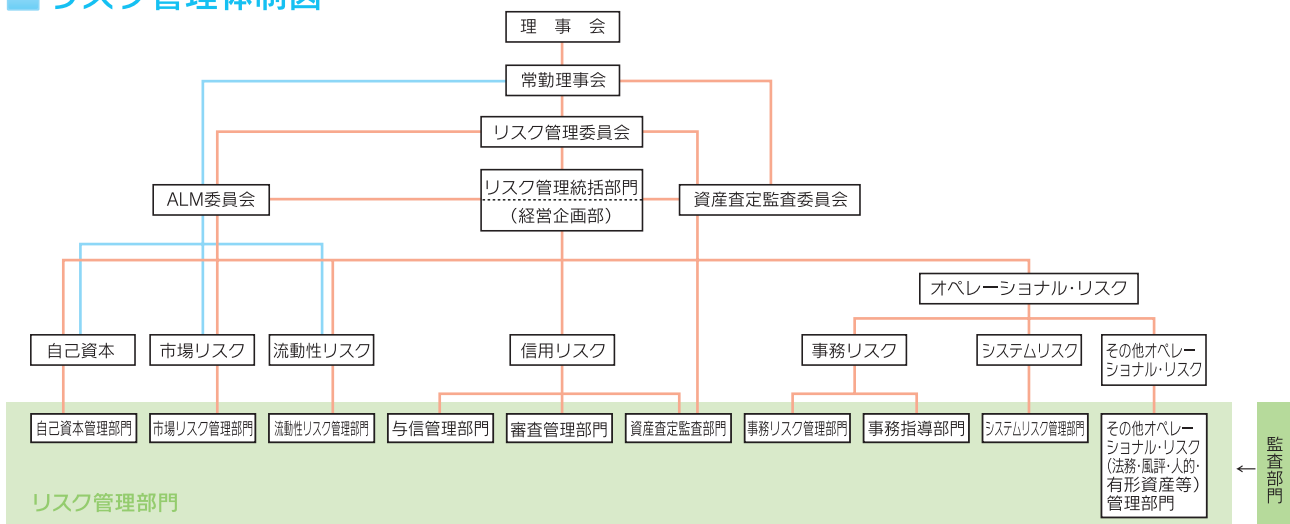
# リスク管理体制

当金庫では、リスク管理の強化を最重要課題の一つとして位置付けています。統合的リスク管理を実現し経営の健全性と安全性を確保するため、「リスク管理の基本方針」およびリスクカテゴリー毎の管理方針に基づき、リスク管理統括部門およびカテゴリー毎の主管部門を定め、当金庫が直面する各リスクを総体的に捉え、経営体力に占める割合を確認しています。

リスク管理委員会では、各管理方針の見直しや各リスクのモニタリング、自己資本額の配賦基準の策定等を行っています。ALM委員会では、自己資本、市場リスク、流動性リスクに関する事項を管理し、定期的あるいは必要に応じてリスク管理委員会へ付議・報告しています。リスク管理委員会およびALM委員会におけるリスクの把握と検証結果、対応策などは、定期的あるいは必要に応じて常勤理事会に報告するとともに、特に経営に重大な影響を与える事案については常勤理事会および理事会に速やかに報告するなど、リスク管理の実効性の確保と充実・強化を図っています。

また、監査部門において、統合的リスク管理の有効性および適正性について監査し、その結果を理事会、常勤理事会および監事に報告し、必要に応じて常勤理事会が改善の指示、改善状況の検証を行っています。

## リスク管理体制図



リスク管理体制  
コンプライアンス体制

## 統合的なリスク管理に向けた取組み

当金庫では、個々のリスクを経営体力(=自己資本)の範囲内で一元的に管理することで、経営の健全化および収益力の向上に努めています。リスク管理委員会およびALM委員会は、次の方法によりリスク量を定期的に計測するとともに、リスク量が自己資本に占める割合をモニタリングしています。3月末におけるリスク量は13,006百万円、未使用資本は26,954百万円であり、リスクに対する備えを十分に確保しています。

各リスク量は、以下の定義に基づいて計測しています。

### 信用リスク

モンテカルロシミュレーション法により、信頼区間「99%」、保有期間「1年」の「信用VaR」を算出しています。

### オペレーショナル・リスク

パーゼルIIIにおける「基礎的手法」により算出しています。

### 市場リスク

#### ○金利リスク

金利変動率と過去の金利変動幅を用いて、信頼区間「99%」、保有期間「1年」の「金利VaR」を算出しています。

#### ○価格変動リスク

株式については過去のTOPIXに対する感応度(β値)から、投資信託についてはリスクをリスク・ファクターに分解し、ファクター毎の感応度(β値)を求め、信頼区間「99%」、保有期間「1年」の「価格変動VaR」を算出しています。

